広報富士川

8月号

編集　富士川町役場内庶務課広報係
静岡県庵原郡富士川町
発行人　助役　中川園兵
電話　岩渕 3・120・127
印刷所　望月印刷所　電話　岩渕 304

順調に進む新幹線工事

蒲原隧道は千月中に貫通か

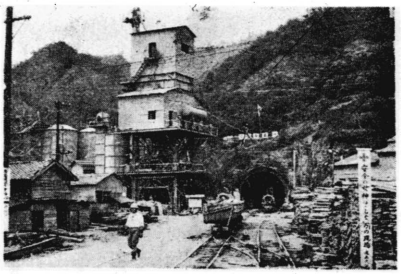
町内に新幹線工事が着手されたのは昭和三十六年六月で以来一年二カ月、工事の進捗状況は順調である。

提防より小池のずい道入口までの一、二七二杆の工事においては、新幹線用盛土に七万立方米を必要とするが、すでに四万立方米の土砂を盛りあげており、その間の道水路の構築物等も着々完成している。小池川より東京方面、大阪方面に延びる約一七〇米の箇所は当局は、工事に慎重を期しており、工事予定は九月着手、三月に完工の計画をたてている。なお、本工事に際し工事資材の搬出入を行なうため、工事用道路も山地地先より富士川堤防に至る間由員六米をもつて完成現在、本道路をフルに使用している。

富士川堤防より東京方面には幹線最大の延長をもつ一、二杆の高架橋が鹿島建設のピア完成後、瀧上工業の手によりトラス桁式により施行されつつある。

蒲原ずい道は、その延長において幹線中第四位を占め（一位丹那トンネル七・九杆）四・八八杆で岩渕工事区分は二・五五杆、作業用道路として、すでに工事の延長を完遂している。由比工事区は十月頃、その日標を完遂する予定であり、ずい道からのズリ（掘さくされた土砂）は約三七万立方米で、その半分は富士方面へ国鉄幹線用盛土として使用される予定である。

なお、東京よりわが町までの幹線杆程は一三七・九杆である。



蒲原トンネル小池抗口、ここより2.55杆まで掘られている

国鉄新幹線専門委員長深沢省吾氏は次のような談話を発表した。

「蒲原トンネルの作業用道坑富士川工事区分が完成し、富士川堤防より小池坑口間の築堤の盛土、ガード等、半分通りすみ、富士川鉄橋もピア完成後橋桁の搬入がはじめられ、名古屋の瀧上工業によつて架橋作業が開始される段階にあります。

町からの要望事項の内、本州製紙横の道路、小池より国道に出る作業用道路も完成し、これは、鉄道完成後は町道として残ることと思います。

なお長い間交渉中であつた道路補修費の件も見通しがつき近く決定する運びとなつております。

その他の諸問題に対しても、目下、国鉄と話合中である。」

鉄橋と小池抗口を結ぶ瀧上工事。構築物はガード（本州製紙南）

国道、全面駐車禁止

九月一日より

県下の国道一号線は、亜化する交通事情の打開策のため、九月一日を期して一斉に全面駐車禁止になる。

この駐車禁止は、軽三輪以上の自動車（二輪車を除く）が対象で、次に掲げる車は除かれる。

(1)警察、消防、救急車のような緊急自動車

(2)電話、郵便の集配、新聞を搬送する車

(3)電気、水道、電話などの緊急工事に使用する車

(4)選挙運動用自動車

(5)汚物収集車

(6)その他警察署長の許可を得て駐車している車

なお本通り塩坂葉局前東側の道路のふくらみのあるところも一時駐車をすることが認められている。

(1)警察署長の許可のいるとき（十分以上のときは警察署長の許可がいる）

(2)客が乗車するまでの時間（おおむね五分以内）

(3)店先の御用聞、配達、物品の受領、連絡、その他の用たしの場合（おおむね五分以内）

(4)車が故障し応急修理の場合

(5)往診中の車（要、表示）

(6)電柱の内側線まで駐車できる場合は路外駐車とみなす

なお、国道一号線の内、直路の山員が広く未補装の分が四米以上ある所は駐車禁止から除かれており、こうした箇所は駐車できる。

当町区域内では幸町の昼夜食堂前から蒲原町寄り大業庵人口まで東一八〇米で県公安委員会から指定されている。（県内二九カ所、延長一三・七八〇米）

この駐車禁止は、県内二九カ所、延長一三・七八〇米の区間を一時、駐車禁止にする。

なお、国道一号線の内、しらべ）については県知事、四日には県議員、町議員の地方選挙があいついで行われるが、選挙人名簿にのつていないと投票することができない。

この選挙人名簿は毎年九月十五日現在で作ることになつているが、その資料として、近く区長を通じて世帯主に選挙資格調書を配付する。世帯主は記入押印の上九月十五日までに組長へ、組長は区長へ、区長は区内一括して九月十七日までに役場庶務課（松野地区は支所）へ提出することになつている。

◇該当する人

(1)、日本国民で昭和十七年十二月二十一日までに生まれた人（今年の十二月二十日で年令満二十才以上に達する）

(2)今年の九月十五日現在で町内に引続き三カ月以上住所を有する人（今年の六月十五日から引続き住んでいる人）

以上(1)と(2)の条件を備えた人が基本選挙人名簿にのる資格者。

◇学生で寄宿舎や寮に居住する人

◇選挙人名簿の確定金と一般の選挙人名簿は、毎年九月一日に調製し、十月一日に確定する。

◇応募資格

人隊する月の一日現在で十八才以上二十五才未満の日本国男子、学歴不問。

▽募集期間

いつでも志願の受付をしている。

▽試験期日及び入隊

いつでも試験を行ない、毎月入隊。

詳細は役場庶務課へ——

⊙町選挙管理委員会より——選挙資格調書（せんさよ

来年一月には県知事、四

⊙防衛庁より——第三次自衛官募集

第六回 町民体育大会迫る

各区対抗リレー、優勝はどこへ

恒例の町民体育大会は、九月十六日（第三日曜）に行われることに決定した。

昨年の特殊種目の人員区に、活気ある展開を見せることであろう。

(一)、六・三リレー（教育委員長杯）

優勝　岩渕五区
二位　岩渕四区
三位　岩渕一区

(二)、各区対抗リレー（体育協会々長杯）

優勝　岩渕一区
二位　岩渕五区
三位　松野一区

(三)、各種団体リレー（名誉会長杯）

優勝　野田合板チーム
二位　教員Aチーム
三位　青年Aチーム

(四)、婦人順送球（婦人会々長杯）

優勝　中之郷四区
二位　松野五区
三位　松野一区

以上は、今年も注目されている種目であり、どこの地区が優勝するか興味深い。

婦人会の民謡踊り（富士川音頭）は、今年、趣向いのゆかたのデザインも新たに、活気ある展開を見せることであろう。

整備急ぐ富士川万澤線

県、六千万円の巨費投入

由比地滑り工事の迂回道路として富士川万沢線が注目されてきた結果、この路線の整備が急がれている。

県は、27年度にわたり六千万円の予算のもと、馬坂の難所の爆破拡巾作業、松野地区内完全補装を強力に押し進めてきており、本年末までに清水、根方、大北一帯の補装工事と、馬坂側岩壁の残り三一一米を完了する予定であり、これがもつて全線の整備が一応完成の域に達することとなる。

なお馬坂の爆破工事は九月頃より本格的に実施され、富士土木事務所富士川支所長の話しによると、馬坂の難所の爆破拡巾作業、作業員、通行人の安全を守るために万全の態勢をとつており、通学、通勤の足、バスの運行にもなるべく支障をきたさないよう工事日程を決めているとのことである。

⊙岩渕電報電話局より——

電話料金の改正

九月三十日（予定）から電話料金が合理的になる。

現在の市外通話料の計算方法は、すべて三分きざみのために、三分を越えて四分で終つても五分で終つても「二通話」つまり六分ぶんの料金として計算されていた。

こんど改正される料金の計算方法は、最初の三分をすぎた後は、一分きざみで料金を加算することとなるすなわち四分で終つた通話の場合は、最初の三分の料金と一分の料金、五分で終つた場合は最初の三分の料金、あとの二分の料金をそれぞれ加算して出すこととなる。ただし例外として、ポツクスの公衆電話からかける場合に限り、硬貨の関係でいままでの計算方法をとる。

(七月一日現在)

お知らせ欄

住民登録実態調査の結果

字名	人口	世帯数
木島	796	133
岩渕郷	3.194	670
中野	5.574	1.113
南之野	2.312	407
北松野	1.888	351
合計	13.764	2.674
新幹線	278	82

町県民税

第2期

8月31日限り

がら登録されなかつたり、また逆に資格の無い人が誤つて名簿にのつたりすることを防ぐ意味で、十一月五日から十五日間、役場で、基本選挙人名簿を一般に公開する。

地味

雲台風にミスの名前がつけられたのを二十代の人は記憶しているだろうか。

今年のようにミスを持ちこまれた年はなかつた。どういう記録になるか判らないが、とにかく記録的な晴天つづきだ。

雲七夕さまの時期ではないが、ワオスター3号と4号の地球圏外でのランデブーは、猛暑を忘れさせる清涼剤であつた。という云い方には文句のある人もあろうが、とにかくスゴイ恋人同志であることに異論はない筈。

雲つい先頃来訪の予定のミスが、小笠原諸島から北東にそれて、わが家も胸をなでおろした。

雲台風は、ミスは、ミスではない。たつぷりと恵みの雨をともなつた、やさしいミスがよい。

雲もうすく白風最盛期。どうか荒つぽいミスよ、こないでくれ。（やさしいミスよ！！）

「南」

淵

わが家の六章

坂下　多津子

「親と子ですぐ明るい家庭運動」——「わが家の六章」——（町青少協）茶の間の見易いところへ貼つて下さい。と書いてあるから、夫、子供にも、自分にもいつでも読める所に貼り付けて、さて、わが家の明朗について考えてみた。

「みんなためになる文句だけれどネ、「せめてこの一つだけでも実行できないものかネ」「これはただの金言といういやつさ、神棚のお札のようなものさ—くよくよするな」「次郎、一寸来い、この野郎はまた…」

一層のことと破つてしまおうかと思つた人は私一人だけであつて欲しい。

……

「現代親子論」—亀井勝一郎著「幸福な家庭の条件」の一つに、こう書いている。

「家庭が緊張しているかだらけているか、その別れは、父や母がその職場やつている両親の姿や、ふとも持ち場で、どの程度に身を入れているかどうかによつて決まる。子供への最大の教育とは、両親がそれぞれの持場で、仕事に熱中している姿そのもの以外にない。この場合両親自身がその仕事によつて教育されているからである。農民でも、大工さんでも、どんな職業でもいい、子供は直接ふれていて、生活のために喊いている姿、その他の諸問題に対して、子供の仕事に熱中している姿そのもの以外にない。この場合両親自身がその仕事によつて教育されている

野田合板全国準優勝

天皇賜杯争奪第17回全日本軟式野球大会

野田合板軟式野球チームは八月八日、大阪日生球場で福岡県代表小野田セメントと決勝を争い、遂に四対一で敗れ、優勝を逃したというものの全日本で第二位の優秀な成績を飾り、静岡県強しの印象を与えた。

同チームは昨年も県代表として大会に進んでおり、今年は県大会へは推せんで出場、四試合を勝ちとった後全国大会で参加五十一チームと技を競い、愛知県代表他四県代表をなぎ倒して決勝戦に臨んだのであった。

全国大会では、総監督以下十八名の選手がバランス祭典や、行事などに自粛の声が高まっているのが全国的風潮であるが、反面「角をためて牛を殺す」などということのないよう、企画の心掛とその運営方法を研究することによって祭典や行事の良い面をのばそうとする動きもある。

わが町でも、盆踊りなど衰微の一途をたどり、それが町自体の活気にまで影響を与えてきつつある点を指摘する人もいるような現状である。

東町一区二区では細心の計画のもと、盆踊りを実施することに踏みきったわけで、さつぱりした湯衣姿の婦人達、太鼓の調子にあわせて踊る人達の楽しげな顔々、うちわ片手に見物する人達の笑顔などがいま」という目的を成功の内に果たすことができた。

東町公館前広場を埋めつくし、二日間事故もなかったので早く申込まないと買えない場合もでてくる。

生活うるおす盆踊り

東町区で盛大に挙行

東町では、盆の十四、十五日、一区二区合同の盆踊を盛大に挙行。

最近、交通事情の悪化、寄附金問題などを反映して、祭典や、行事などに自粛の風潮があるが、「角をためて牛を殺す」などということのないよう、企画の心掛とその運営方法を研究することによって祭典や行事の良い面をのばそうとする動きもある。

わが町でも、盆踊りなど衰微の一途をたどり、それが町自体の活気にまで影響を与えてきつつある点を指摘する人もいるような現状である。

東町一区二区で細心の計画のもと、盆踊りを実施することに踏みきったわけで、さつぱりした湯衣姿の婦人達、太鼓の調子にあわせて踊る人達の楽しげな顔々、うちわ片手に見物する人達の笑顔などがいま」という目的を成功の内に果たすことができた。

東町公館前広場を埋めつくし、二日間事故もなかったので早く申込まないと買えない場合もでてくる。

櫓の太鼓も響き……。東町公民館前広場

富士川町史

追加申込を受付

役場では富士川町史を去る七月二十五日から予約者について配本しているが、まだ受取らない人があるので、至急受取りにくるよう望んでいる。なお、残部については予約申込者以外の人にも先着順に追加申込を受付け配本することになつたので来月十日までの間に役場又は支所へ直接申込めば、予約配布価額五百円と同じ価額で入手できる。

ただし部数が限りがあるので早く申込まないと買えない場合もでてくる。

本通三・四チーム優勝

第六回区対抗軟式野球大会

十二日、町内各区代表十一、本通三・四のチームの四チームによる第六回区対抗軟式野球大会（予選）が第一小学校、第一中学校々庭で開かれ、更に十九日勝ち残った川坂、宮町、本通三・四のチームの準決勝戦が炎天下、砂塵をあげて競われ、遂に有力候補の本通三・四が昨年に引続き優勝した。

決勝戦における川坂チームの善戦はすばらしく、六回まで強敵本通三・四を一点差に追い、七回表ホームラン一本を含むヒット三本を集中一挙三点をあげ四対二と逆転、そのまま押切るかに見えた、応援団を熱狂させたが九回裏、本通三・四のぎりぎりの攻撃で遂に地力を爆発、ホームラン一本を含むヒット二本により六×対四で川坂を降した。

四十二才の健斗

役場職員、風間清治氏は去る七月二十九日行われた水上競技静岡県大会で、男子四〇才以上五〇米背泳に出場、第三位の成績をおさめた。

健康保険第13回全国勤労者と逆転、そのまま押切るかに見えた、応援団を熱狂させたが九回裏、本通三・四ぎりぎりの攻撃で遂に地力を爆発、ホームラン一本を含むヒット二本により六×対四で川坂を降した。

消防副団長交替

木伏嘉六氏詳任

消防副団長の要職にあつた木伏嘉六氏（南松野）は七月三十一日、一身上の都合により職を辞した。

大正十四年、松野村消防組消防手拝命、昭和三十二年四月合併とともに富士川町消防団副団長勤続37年。

後任には渡辺勉氏（前本部長北松野）が決定した。

身障福祉会

町身体障害者福祉会が八月二日、富士ヘルスセンタ月二日、安部庵原福祉事務所光光部長）主催で遺族の青少年約五十名が十九日日帰りで井川ダムを見学した。

遺族青少年

井川ダムへ

町遺族会では青年部（青年部長）主催で遺族の青少年約五十名が十九日日帰りで井川ダムを見学した。

一小生徒キャンプを楽しむ

校庭に赤々、キャンプファイヤー

第一小学校では、生徒の夏季訓練とリクレーションを兼ねて七月二十四日、二十五日の両日にわたり朝霧高原で五、六年生のキャンプを実施。八月一日、二日の両日には四年生の学校キャンプを実行に移した。

七時半、校庭にキャンプファイヤーの火が点火されて、四年生全員約二百名の大きな輪は、歌声と笑声で包まれ、燃える炎に照らされて踊りや合唱を楽しんだ。

周囲に立ちならんだ父兄の胸にも、食事を共にし同じ喜びを味わうこうした団体生活が、人格養成のため計り知れない効果をあげるものであることが実感として浸透していつたことであろう。

児童遊園地

これで五ヶ所

町は県の補助をあおぎ、総額二十万円をもつて、川坂堺町地区児童遊園地を川坂観音境内に建設――。

普及する簡易

バレーボール

町体育指導委員会では今町健民運動の第一着手として簡易バレーボールを採用の普及化に努力しているが、八月三日松野地区で練習試合を開く段所にまでこぎつけた。

これは非常に簡単なルールで、使用されるボールもビニール製、誰にでもできるという魅力あるゲームである。

（写真は簡易バレーボールの練習。松野地区）

人の流れ

（敬称略）

祝結婚

区名	氏名	保護者続柄
新町	新婦旧姓	
相生	若月計彦	静代 望月
坂下	梅谷興三	道子 江原
舟山	沼尻定夫	節子 岩崎
宮町	小笠原専次民子	小池
大北	井出勝	町子 遠藤
矢所	井出	浩隆 恒利長男
宮町	吉田公徳	和枝 小林

祝誕生

区名	氏名	保護者続柄
小山	帯鷲由紀子	理一二女
相生	望月	浩隆 恒利長男
宮町	青木	悦子 弘一長女
旭町	田中	才喬 三男
日出	浦田	和光 修 二男
上町	斎藤	哉 圭吾三男
木島	佐伯	香織 一郎二女
堺町	広渡	好子 健造長女
相生	斎藤	高順 勲 長男
相生	望月	勇次 照雄二男
堺町	広渡	好子 健造長女
原方	若林	一民 邦彦長男
半在	宇佐美右子	春雄長女
矢所	井出真澄	猪之作長女
辻	高岡	文代 利巧三女
大北	佐野	隆利 静嘉長男

転出した人

区名	氏名	転出先
坂下	滝	志子 清水市
小山	斎藤	陽子 群馬県
四十九	古木	とみ子 清水市
半在家	天野	金子 清水市
原方	錦織	艶子 東京都
清水	久保田	礼子 土肥町
道上	栗原	圭子 東京都

祈冥福

区名	氏名	年令
本三	望月	とく 八三
堺町	岩下	民治 五七
水野	幸誠	八八
坂下	長谷川金五郎	八七
相生	斎藤	勝義 一〇
舟山	中司	芳作 七二
本四	八木	すゑ 七九
東二	佐野	きく枝 二四
新町	増田	ひろ 六五
大北	宇佐美	ヒロ子三七
堀内	天野	守久 三五

原始時代

町の昔ばなし　その八

富士山は、その当時、巨大な神格をもつた「煙吐く山」であつて、木島周辺に居住していた原始人も例外でなく、この聖なる山、火の山をおそれ敬まつていた……。

部落は三十棟ほどの住家と十棟の物置をもつて形成され、人口は総数百五十余人つて、いつも通り屈強な男達の平数以上を川口に向け出発させなければならない。男は部落に残る方に廻つたので、人々に計つて背後の山頂きに、この突出した大岩からは部落全体は勿論、川や河原の様子遠か海の景色が一望の内の爆発音は上流部落の飢えるものであつたからだ。

前兆は当つた。翌日の中、上流から男達が三々五々思い思いの武器をぶらさげ現れてくるのが見物見場所に、妻と二人住居を営んでいた若い男もそうしたいわゆるリーダーの一人だつた。

或は山へ、或は川へ、老若男女は、やがて来る冬に備えて、さんさんと降りそそぐ陽光を浴びながら、一心に食糧を採取した。

男は鋭く物事を観察し迅速な判断力から、部落に大きな利益をもたらした。

山の樹間を通る鹿の姿を捕え、すぐさま網をかけて追跡、四頭を射止めて部落の貯蔵倉を豊かなものにし、或は水の動きから魚群の川上りを察知し、老人、子供、女を全部集めて狩山の魚を釣りあげ、焼いたり乾燥したり、塩漬けにしたりして、まる二日間楽しい労働を与えた。男が遠出の狩猟に参加した時は、妻がを収め、真赤な炎で木島部落に浮彫りさせていた。

やがて貯蔵倉の中には、草の根、樹皮、木の実、鹿兎、鳥、蛇、ねずみ、魚、貝などが山のように積まれ雨の降つた日など、男達が行斧や弓を整備したり、女達が土をこね皿や壺の形を整える余暇を分け生みだしていた。

例年の塩の採取の時期となつた日、いつになく、山の爆発音がいん／＼と響いて、いつも通り屈強な男達の平数以上を川口に向け出発させなければならない。男は部落に残る方に廻つたので、人々に計つて背後の山頂きに、この突出した大岩からは部落全体は勿論、川や河原の様子遠か海の景色が一望の内の爆発音は上流部落の飢えるものであつたからだ。

前兆は当つた。翌日の中、上流から男達が三々五々思い思いの武器をぶらさげ現れてくるのが見物見場所に、妻と二人住居を営んでいた若い男もそうしたいわゆるリーダーの一人だつた。

或は山へ、或は川へ、老若男女は、やがて来る冬に備えて、さんさんと降りそそぐ陽光を浴びながら、一心に食糧を採取した。

男は鋭く物事を観察し迅速な判断力から、部落に大きな利益をもたらした。

山の樹間を通る鹿の姿を捕え、すぐさま網をかけて追跡、四頭を射止めて部落の貯蔵倉を豊かなものにし、或は水の動きから魚群の川上りを察知し、老人、子供、女を全部集めて狩山の魚を釣りあげ、焼いたり乾燥したり、塩漬けにしたりして、まる二日間楽しい労働を与えた。男が遠出の狩猟に参加した時は、妻がを収め、真赤な炎で木島部落民を祝福した。

その柔かいい姿を、青空を背